

1月26日の臨時議会、地震対策中心に議論



【一部損壊への支援も検討】 能登半島地震による上越市内の住家の被害は、全壊1、大規模半壊5、半壊17、準半壊19、一部損壊969、床上浸水1、床下浸水14となっています。いずれも1月24日現在です。

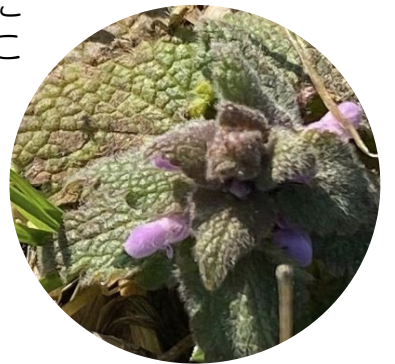
こうした被害状況の中で市は、被災者住宅応急修理制度で、初めて市独自の支援を上乗せ（全壊100万円、中規模半壊50万円、半壊50万円、準半壊30万円）します。これとは別に、一部損壊への支援も検討していることを本会議で中川市長が、農政建設常任委員会では大島都市整備部長が明らかにしました。一部損壊への支援は、日本共産党議員団が市長にたいして要望していた事項のひとつです。



【ガラスを割って避難所の中へ】 文教経済常任委員会審査では、避難所問題などが取り上げられました。今回の能登半島地震で津波警報が出ましたが、避難所となっている学校などへ避難しようとしたものの、カギが開いていなかったためガラスを割って入らざるを得なかったところが少なくとも6か所あったことが昨日の文教経済常任委員会で明らかにされました。これは、日本共産党議員団の上野議員や無所属の宮越議員の質問で明らかになりました。津波などの緊急事態の際、カギ開けが間に合わなかった場合は、ガラスを割って避難所に入ることは認められています。緊急対応とはいえ、危険ですので、スピーディにカギを開ける対策が必要ですね。



【板山の県道復旧で要請】 総務常任委員会で私は、県道上越安塚柏崎線の大島区板山地内の道路崩落についてとりあげ、「ここは大島区旭地区、吉川区川谷地区にとって重要路線だ。復旧見込み未定ということでは納得できない。（早期復旧に向けて）もっと具体的な情報を」と訴えました。これにたいして市川防災危機管理部長は、「非常に重要な道路だ。県管理の道路だが、県にしっかり申入れをしながら、早期復旧の見込みを含め通行止め解除に努めていきたい」と答えました。



県立吉川高等特別支援学校のハッピーカフェが1月24日行われました。荒れた天候にもかかわらず、大勢の人たちが駆けつけていました。カフェのスタッフを務めた生徒はいくぶん緊張気味でしたが、言葉ははつきりしていましたし、丁寧に接客していました。イラストはカフェの厨房周辺の様子を描きました。

支援学校で喫茶十作品展開催

【ヒメオドリコソウ】（再掲）ソソ科の越年草。漢字で「姫踊り子草」と書きます。卵のような丸い葉、そこにピンクで、唇のような形のかわいい花が踊るように咲く。花期は通常、3月から5月です。花言葉は「春の幸せ」「陽気」「愛嬌」など。写真の花は、1月30日、柿崎区江島新田にて撮りました。

同校では、今回、「ミニアーブルリユット」を同時開催しました。が、これがまた大当たりでした。私が気に入っている長谷川あ久里さんや佐藤葉月さんの絵が展示されていました。お二人とも個性あふれる線と色で独自の世界を作りだしています。そして初対面でしたが、下鳥幸彦さんのシーグラスアート、左手だけで作ったそうです。これも魅力的な作品でした。

あまり目立たない場所にありましたが、もうひとつ、惹きつけられたのは、同校に在学していた藤岡健太さん制作の冊子、「成長の軌跡」。詩も文章も絵も写真もすべて藤岡さんの作というところですが、いずれの作品も素晴らしく、将来が楽しみです。



はしづめ法一の活動レポート

No.2144 2024.2.4

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七九一回 また、明日も

先日、四年ぶりに旧源中学校時代の同級生が集まり、ミニ同級会をやりました。集まったのは、ヨシカズくん、トラウちゃんなど大湯区、柿崎区、吉川区に住む六人です。

会場はトラウちゃんの行きつけのお店です。午後六時前にトラウちゃんとサチコさん、それに私が宴会場入りし、続いてカヲルさんがやってきました。

宴会場には、黒くて大きな大人用とピンク色の子ども用の座椅子がいくつか用意してありました。カヲルさんに、わざと、「はい、あなたはこれにどうぞ」とピンクの座椅子を勧めると、「うちでも子ども用に座っているの」と言いながら、腰かけました。その途端、「ピュー」と鳴ったので、本人も私も大笑いしました。

そこへ、「ミニ」しながら、「おはよう」と言って入ってきたのはヨシカズくんです。続いて、ヨシカズくんの連れ合いであるミツコさんも入ってきました。

前回のミニ同級会の際には、このメンバーの他にS君も入っていたのですが、三年前に亡くなってしまいました。宴会のスタートは丁度午後六時から。生ビールで乾杯し、テーブルの上に次々と運ばれてきた刺身、焼き鳥などを食べながら話をしました。

四年ぶりですから、積もり積もった話はいくつもあります。やはり一番の話題は元日に起きた能登半島地震です。

地震発生時、ヨシカズくんはミツコさんとともに家の中にいたんですね。「うちのは台所からテーブルの下にさあーと入った。早かった」と言いました。

続いてカヲルさんだっと思いましたが、「みんな奥へ奥へと逃げて、下黒川の学校のグラウンドで一晩泊まった人もいた。携帯電話、かけあったこと……」と言いました。そこへミツコさんが参入し、「うちの、やさしいの」と言いました。これにカ

ヲルさんがすぐ反応し、「わたしに一晚貸して」とジョークを言ったものですから、またみんなが笑いました。

続いては同級生の近況です、話題となったのは。みんな元気でいてほしいのですが、年を重ねるうちに病気で亡くなる人が出てきています。原之町の万年堂旅館で同級会をやったときは元気だったK子さんが亡くなったという話のあと、大柄のS子さんや山登りが大好きだったA子さんが亡くなったという話にはみんなびっくりしていました。

同級会はミニであろうが大であろうが共に体験した昔話で盛り上がりがあります。

今回は源小学校六年生だった時の就学旅行のことが話題となりました。私から、「志賀高原へ行くときのバスの中でガイドさんが歌ってくれた歌、何だったっけ」と言ったら、みんな、すぐには言えませんでした。そこで私とトラウちゃんが「バスはゆくゆくあの山越えて……」とやり始めたら、みんなはすぐに「わかる、わかる」と言い出しました。タイトルは忘れても歌詞はちゃんと覚えている。すごいですね。

サチコさんは、「私、この旅行の時の写真、あるわ。みんなセーラー服を着て行ったけど、私は買ってもらえず、セーターを着て行ったの」と言いました。私もこの修学旅行の際、泊まった旅館の玄関先での記念写真を見た記憶があります。何人かが「写真、見てみたいなあ」とつぶやきました。

ミニ同級会とはいえ、この日は三時間ほどかけてゆっくりと楽しみました。同級生のことだけでなく、中学校でお世話になった上野實英先生や畠山利一先生のことなども話題となりました。ちょっとしたことでも笑い、話はなかなか尽きません。「同級会って、どうしてこんなに楽しいのかね」という声が出たら、ミツコさんがささず言いました。また、明日もやろよ。

能登半島地震被災者への思いを込めた歌も

直江津のライオン像のある館を会場にした「寄り道ライブ」が1月27日、28日と開催されました。

開催は今年初めてです。私は28日の朝市での宣伝行動後、30分だけ聴いてきました。歌い手は「キエ」さん。自分で作詞作曲する人ですが、この日は能登半島地震で被災した人たちのことを思いながら作ったという「祈る」という曲が心にしみました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月24日(水)	1月31日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.063	0.053
高士分遣所	0.050	0.050

頑張る朝市の人・竹内農園さん

直江津の三ハ市で頑張る人、今回は小猿屋の竹内農園さんです。やわらかなキャベツ、オータムポエムなどが人気です。ぜひ一度、食べて下さい。



最新エッセイ集『春になったら』発売中。定価1650円。

